令和５年度第１回　伊勢市地域福祉計画推進委員会 結果概要

開催日時　令和５年７月10日（月）10時00分～12時15分
開催場所　伊勢市健康福祉ステーション７階　福祉総合支援センターよりそい会議室１
出席委員　鵜沼 憲晴委員、小林 初美委員、加藤 志保委員、小野田 弥生委員、
三川 隆委員、泰道 詞子委員、中居 美幸委員、立松 浩明委員、
秋山 則子委員、前島 賢委員、大東 弘幸委員、西岡 幸一委員
欠席委員　清原もゝ代委員、松村 まち子委員
事務局　伊勢市：健康福祉部長、健康福祉部理事、健康福祉部次長
参事兼福祉総合支援センター長、
健康課長、介護保険課長、高齢・障がい福祉課長、福祉総務課長、
子育て応援課長、保育課長、市民交流課長、学校教育課長、生活支援課主幹
福祉総合支援センター副参事、センター長補佐、主幹、係長、主査、職員
伊勢市社会福祉協議会：局長、地域福祉課長、副参事、係長、主査、センター長
傍聴者　なし

１．第４期　伊勢市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定について
（１）第３期 伊勢市地域福祉計画・地域福祉活動計画の総括について
資料に沿って事務局より説明。

【委員からの主な意見等】
〇コミュニティソーシャルワーカーの役割、活動実績について聞きたい。
（事務局回答）地域からの孤立しがちな方がいるといった情報を元に、サロンなどにつなげる活動をしている。

〇自治会、まち協などでの地域活動の中で、特に緊急時の対応に、障がいのある方のことがあまり感じられない。
（事務局回答）ご本人から同意を得た上で、自治会や民生委員の方々に、避難時に支援を要する人の名簿を提供し、地域で支える仕組みづくりを進めている。地域が実施する避難訓練に障がいのある方が参加され、そのような場を通じて、ご本人のことを知っていただいている事例もある。今後も積極的に進めていきたい。

〇ふくしなんでも相談窓口の実績、どんな相談があり、どう対応したか。
（事務局回答）相談はあまりないが、窓口で対応する方からは「ちょっと心配な人がいて地域包括支援センターを案内した」事例を聞いており、啓発が進んでいるのを実感している。
→地域の人に広がるよう周知に努めてもらいたい

〇よりそい開設後、市役所本庁舎にいた時と比べ、現状はどうか。
（事務局回答）移転から日が浅く相談は少ない。今はタブレットで本庁舎と繋いで相談に対応し

ている。関係機関が集まりやすく、会議をスムーズに行えるようになった。

○地域生活支援拠点の登録者数、事業者数はどれくらいか。できるだけ早く進めていただきたい。
（事務局回答）市内の主な短期入所事業所が登録をしていただいている状況。今後、緊急時の支援リスクが高い方を中心にプランを作っていこうと考えている。自立支援部会、相談支援ネットワークで検討しながら進めていきたい。

○障がい児の避難について、他の避難所ではパニックになることもある。また、親が迎えに来れない場合もある、迎えに来るまで避難できるよう考えていただきたい。
（事務局回答）福祉避難所として、いくつかの事業所と協定を締結している。障害福祉サービス等事業所の福祉避難所としての協定締結の推進は今後の課題と感じている。一方で、国からは事業所に対してBCPの作成が求められていることから、事業所とも話し合っていきたい。

○フリースペースこだまの参加者は、どういった支援でつながったのか。
（事務局回答）障がい分野の関係機関からの紹介が多いが、地域包括支援センターからの紹介でつながったこともある。

○コミュニティソーシャルワーカーの誰がどこを担当しているか分かる資料はあるか。
（事務局回答）各まちづくり協議会などの場に参加する際は自己紹介しているが、一覧は作っていない。周知について検討していきたい。

○地域カルテを地域で活用した例、活用した結果の評価は。
（事務局回答）各地域の社会資源、高齢化率を載せている。まちづくり協議会で地域課題を検討の材料として使った。情報は時点に応じて更新しており今後も活用していきたい。

○緊急時に障がい児・者を受け入れできる体制の構築について、親の高齢化により配偶者の介護と障がいのある子どものケアが重なるダブルケアに陥る可能性があり現実に起こりつつある。市内に安心して預けられる施設の整備をお願いしたい。
（事務局回答）今年度、伊勢市障がい福祉計画を策定していく中でも検討していきたい。

○ひきこもりサポーターはどんな活動をしているのか。
（事務局回答）中間的就労、フリースペース、家族の交流会の運営のほか、ひきこもりの方と一緒に公共交通機関を利用したり、体力づくりをするなどの個別支援の協力もしていただいている。

○ひきこもりの方にはすぐ就労は難しくてもボランティア活動等を通じ役に立つ嬉しさを感じる体験があればいいのでは。
（事務局回答）職場体験の協力事業所を増やす取り組みを進めている。職場体験や地域の集いの場でのお手伝いで感謝の声をかけられる経験を通じて変わっていく過程をサポーターと支えて

いる。

〇ひきこもりの方が一歩外に出ることが大事、それをエスコートする行政、社協の力添えの重要さを感じている。ボランティアとして支えたい。

〇ひきこもり支援は、個別訪問もしているのか
（事務局回答）している。ご本人に会えない期間が長くても親とつながり続ける。

〇子どもの時の不登校からひきこもりにつながることもある。地域に居場所があるといい。
（事務局回答）ひきこもりサポーターと協力し、いろいろな居場所を模索していきたい

〇市内小中学校の不登校の割合は全国と同程度（約３％）。小中学校で一時的に不登校になってもひきこもりにならないよう小中学校、高校が連携し居場所づくりをしている。市の様々な支援にも感謝している。ボランティア活動の企画運営にも感謝している。児童生徒の参加には保護者の理解、安全面での配慮が重要。市と学校とが連携し進めていきたい。

〇国が市町の施策へこどもの参画を推進している。策定委員に入れるなど仲間として参画してもらいたい。

（２）アンケート調査の結果について
資料に沿って事務局より説明。

（３）伊勢市を取り巻く状況について
資料に沿って事務局より説明。

（４）第４期計画に盛り込む内容について
〇ひきこもりの方の第一歩をサポートする活動は今後もお願いしたい。高齢者、障がい者の交通手段についても考えていただきたい。
〇地域の困りごとで無理と思っていたことでも声をあげて変わったことがあった。
〇高齢者は増えているのに老人クラブの組織がなりたっていかない、活動を繋いでいけない状況になっている。
〇障がい関係施設としての地域貢献活動を検討している。
〇居場所づくりに空き家の活用を含めていただきたい。
〇支援を必要とする方の災害時、緊急時の対応、コミュニティソーシャルワーカーの活動、役割の啓発について盛り込んでいただきたい。
〇多様な相談機関が整備されてきたが、まだ市民の認知度が低いように感じた。周知の必要がある。
〇居場所づくり、活動の場づくり、ひきこもりの方それぞれの状況に応じた社会とのつながりの

きっかけとなる場など、スペースとしての場づくり、企画としての場づくりがますます求められている。既存の場所等も活用しながら、新たな企画が打ち出せるような計画にしてほしい。

（5）今後のスケジュールについて
資料に沿って事務局より説明。

２．その他
（１）伊勢市健康福祉ステーションについて事務局より説明
（2）伊勢市ひきこもり地域支援センターつむぎ開設について事務局より説明